

複合災害への備え — 新型コロナと台風 —



ちくまがわ
2019年台風19号による千曲川の氾濫
(出典:国土地理院)

✪ 新型コロナも災害の一つ

新型コロナウイルス感染症(以下、「新型コロナ」)の感染拡大により、多くの人命が奪われ、経済的な影響も深刻となっています。災害対策基本法において、災害とは地震、火山噴火のほか、台風などの気象災害を指しますが、新型コロナも人間に影響を及ぼし、事象自体を制御できていないという点から、災害の一つといえるでしょう。

新型コロナは台風災害と比較して、より広範囲

かつ長期的な影響を及ぼします。新型コロナは感染力が強く、世界的な広がりとなっているほか、有効なワクチンや治療薬の開発等に時間がかかるため、終息するまでには1~2年かかるといわれています。そのため、新型コロナが流行している中で、台風や大雨シーズンを迎えることとなり、新型コロナと気象災害の複合災害に備える必要があります。

	新型コロナ	台風
被害	健康被害や経済的打撃	人命と財産を奪う
影響範囲	全世界的	数百km~千km程度(関東地方など)
影響期間	数ヶ月~2年(?)	1日~数日間
危険な場所	3密環境(密閉・密集・密接)	低地や河川、崖の近くなど
情報	緊急事態宣言	特別警報
予測	数週間先の感染者数傾向を予測	数日前から進路や強さを予測
対策	自宅に留まること(感染者は病院やホテル)	避難所や自宅など安全な場所

新型コロナと台風災害の比較

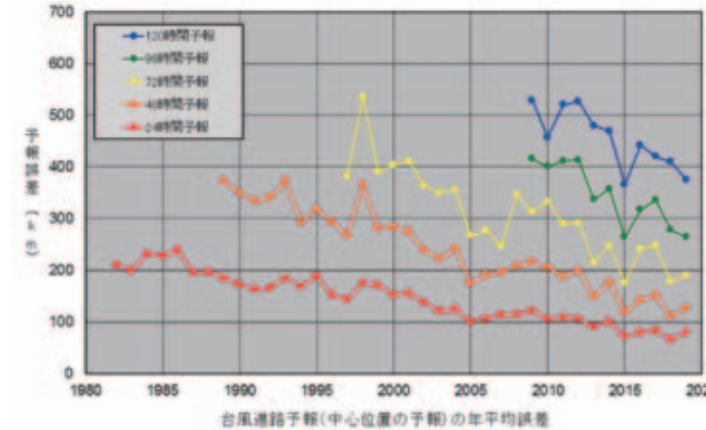
✪ 甚大化する気象災害

近年、甚大な気象災害が相次いでおり、一昨年の「西日本豪雨」に続き、昨年にも「令和元年東日本台風」(2019年台風19号)で記録的な大雨が降りました。千曲川や阿武隈川など大きな河川が氾濫し、100名以上が犠牲になりました。一方、台風19号接近時に、気象庁は上陸5日前に「全国的に暴風や災害級の大雨」のおそれがあると情報を発表したほか、3日前に緊急記者会見を開くなど、早い段

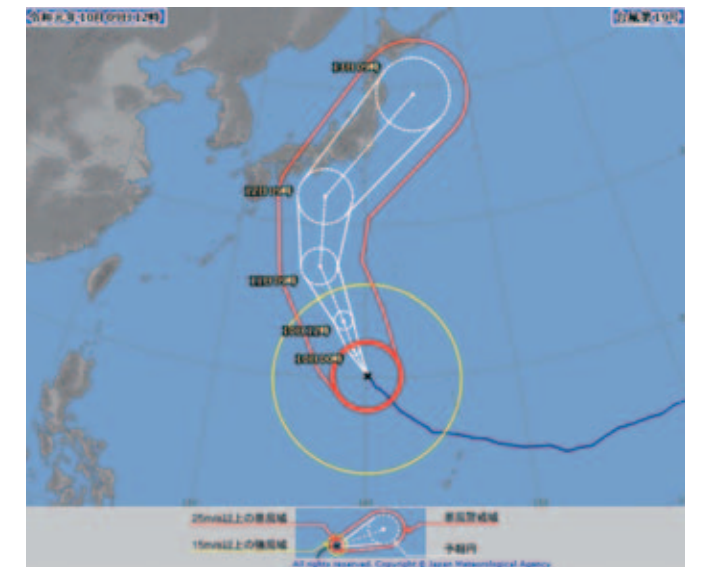
階から避難を促す的確な情報を発表しました。

その背景にあるのは予報精度の向上であり、台風進路の3日予報の誤差は20年前の半分(約200km)となり、5日予報も20年前の3日予報と同程度の誤差と小さくなっています。さらに、今年9月からは、台風発生前の熱帯低気圧の段階で、5日先までの進路や強さを発表する予定となっており、一段と改善が図られます。ただ、精度が高い

情報であっても必ずしも避難行動に結びついておらず、逃げ遅れて犠牲になる人が多いのが課題で、情報伝達の改善が検討されているところです。



台風予報の精度(資料:気象庁)

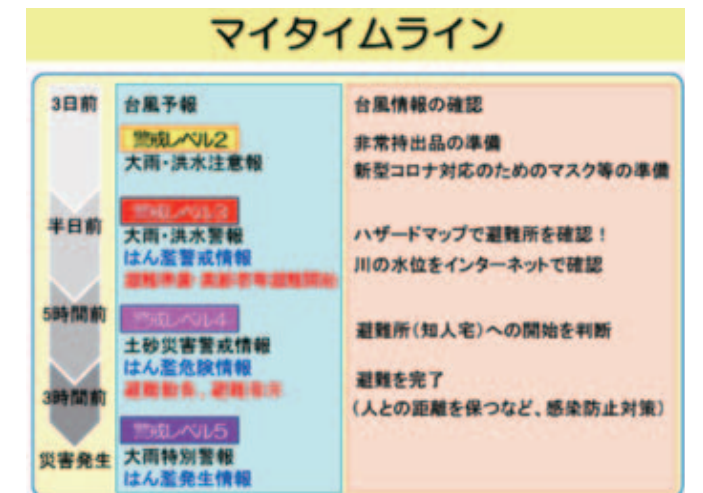


台風の5日予報(資料:気象庁)

✪ 新型コロナ流行時は分散避難

気象災害に対する避難は必ずしも自治体が指定する避難所に行くことではありませんが、土砂災害や河川氾濫など災害リスクが高い地域に住んでいる人は、早めに安全な場所へ避難することが命を守るために必要です。しかし、避難所はまさに密閉、密集、密接の「3密」環境であり、感染リスクが高いため、避難所運営が難しくなります。避難した方の間隔を空けるなどの配置や収容人数の制限、そのほか、テントや車中避難、知人宅など分散した避難が必要になるものと思われます。発熱するなど感染症の疑いのある方に対してはどのように対応するのかなど、避難所の運営方法も事前に検討しておく必要があります。

これまでも台風接近などで甚大な災害が予想される場合に備え、いつどこへ、何をもって避難するかなどを、市民自らが考えるマイタイムラインの作成を進めてきましたが、今年は新型コロナを想定に加えた内容が必要です。国や自治体、気象予報士は、新型コロナ対応の避難所準備に時間がかかることも考慮し、これまで以上に時間的猶予をもって、的確な気象情報や避難情報を提供するとともに、日頃から新型コロナと台風等の複合災害への備えを呼びかける必要があると考えています。



複合災害を考慮したマイタイムライン

いわ や ただ ゆき
岩谷 忠幸

Profile

気象予報士、防災士
東京都立大学 理学部 地理学科 気候学専攻を卒業後、民間気象会社にて気象解説を担当。気象予報士制度がスタートした年から気象キャスターとなり、フジテレビや日本テレビに約15年間出演。現在は日本テレビの気象デスク担当。国や自治体にて防災や気候変動などの委員を歴任したほか、JICA 専門員としてミャンマーの気象キャスター支援。著書に「山岳気象入門」(山と溪谷社)、監修に「プロが教える気象・天気図のすべてがわかる本」(ナツメ社)。

